

さめき水田営農だより

転作作物(麦、大豆、野菜等)の作付けに対して、
さらに助成金が交付されます!

需要即応型水田農業確立推進事業(追加経済対策)

対策の概要



活動計画の取組メニュー(作物ごとに策定)

<p>①加工業者とのマッチング</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者と生産現場との情報交換を行い、生産・流通計画に基づき生産を実施 ・新品種導入に向けた栽培講習会の受講 	<p>②流通体制の効率化</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同乾燥調製施設の利活用へ切替え ・選別基準の徹底のための技術講習会の受講 	<p>③品質の向上</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者ニーズを踏まえた追肥方法の導入 ・実需者ニーズを踏まえた栽培暦の改善 	<p>④環境・安全への配慮</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培暦の見直しによる化学肥料の節減 ・栽培履歴記帳の実施
---	--	---	--

地域協議会が策定する活動計画(作物ごとに地域でまとまりをもって上記の取組みを行う計画)に参加する場合

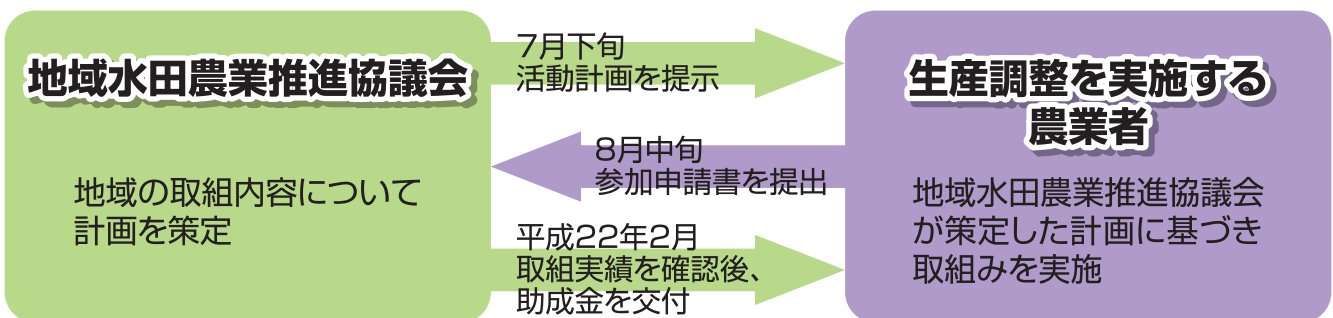
産地確立交付金などの助成に加えてさらに!

15,000円/10a(1メニューの取組みで5,000円/10a。最大3メニューまで)
が生産者に助成されます。

(注) 助成対象者は、生産調整実施者(集荷円滑化対策の生産者拠出金を拠出した者)であって、地域協議会が策定する活動計画に基づき、対象作物の生産活動を行ったことが確認できた者。
対象作物は、地域水田農業ビジョンに位置づけされている転作作物で、活動計画を策定しているもの。
米粉用米及び飼料用米は、別途メニューへの取組みにより、最大25,000円/10aを助成。

【取組メニュー】 ①実需者との連携活動及び混入防止等活動
②効率的な流通体制の整備又は集中乾燥調製体制の整備

助成までの流れ(時期については予定)



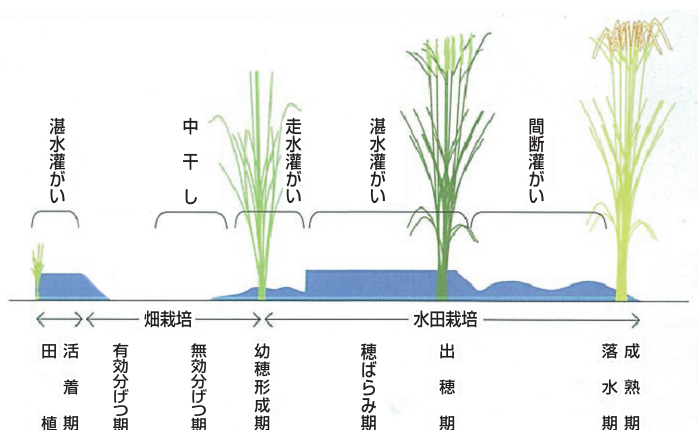
詳細については、県水田農業振興協議会及び各地域水田農業推進協議会にお問い合わせください。

用水不足に対応する水稻の「節水栽培」に取り組みましょう。

本年は、降水量が少なく、水不足が心配されます。用水が不足しやすい水系では「節水栽培」によって灌がい水の有効利用に努めましょう。

水稻の生育期間には、水をたくさん必要とする時期とあまり必要としない時期があります。「節水栽培」とは、生育段階に応じた**最低必要量**を給水し、用水を節減する方法です。

<図>節水栽培の灌がい法のイメージ



<写真>溝切り実施ほ場の様子



水稻節水栽培の目安表

成育ステージの目安は、地域の気象状況等によって変わります。

生育ステージ	品種(田植) 水の必要度 ※注1	コシヒカリ				節水栽培における配水の目安		
		(5/1)	(5/20)	(6/20)	(6/20)	用水がやや少ない場合	用水が極めて少ない場合	土壌水分の限度 ※注2
活着期	◎	5/1	5/20	6/20	6/20	湛水	湿潤	黒湿り
有効分げつ期	△	5/10	5/30	6/30	6/30	湿潤	断水	黒乾き (土壌水分60%) ※注3
無効分げつ期	▲	6/3	6/19	7/15	7/20	断水 (中干し) ※注4	断水 (中干し)	白乾き
幼穂形成期	◎	6/25	7/5	7/20	8/5	数回灌水	1~2回灌水	黒湿り (飽和状態を保つ)
穂ばらみ期	◎	7/5	7/15	7/30	8/15	数回灌水	1~2回灌水	黒湿り (飽和状態を保つ)
出穂開花期	◎	7/20	7/30	8/14	8/30	1~2回灌水	湿潤	黒湿り (飽和状態を保つ)
登熟前期	○	7/25	8/4	8/19	9/4	湿潤	断水	黒湿り (飽和状態を保つ)
登熟後期	△	8/14	8/24	9/8	9/24	断水	断水	黒乾き (土壌水分60%)

注1) 水の必要度 ◎: 大、○: 中、△: 小、▲: 微 を示す。

注2) 土壌水分の限度は、水稻の育成収量に大きな影響を与えないと考えられる最低の土壌水分であり、この状態に達すると灌水する必要があります。

注3) 土壌水分 60% とは、朝、葉の先端から露が出てきている状態です。

注4) 用水に余裕がある場合は、中干しの終了時期を早めるなど中干しが強すぎないように注意しましょう。

全般的な干ばつ対策

1. 少ない用水でも、水がほ場全体に効率よくまわるよう溝切りをしましょう。(写真参照)

2. 葉色の濃い稲は干ばつに弱いので、穂肥施用を行う場合は施用量に注意しましょう。

3. 水路等の灌がい施設の点検整備を行い漏水を防止しましょう。

4. 用水がなくなってきた場合には、土壌表面からの蒸散量を少なくするため、刈り草などで畦畔沿いを被覆しましょう。

5. 海岸部で井戸水を灌がいに利用しているところは、塩分濃度に注意してください。

●内容についてのお問い合わせ先／

香川県農協中央会指導部指導課
香川県農政水産部農業生産流通課

TEL: 087-825-2503
TEL: 087-832-3418